

<香川県内の経済動向> (平成 29 年 2 月 15 日作成)

現在の景気：緩やかな回復を続けている。

3 か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：持ち直し基調。

12月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比0.8%減と3カ月ぶりに減少。店調後は前年比0.8%減と3カ月ぶりに減少。12月のコンビニエンスストア販売（速報値）は、前年比（店調前）2.5%増加。12月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）2.6%減と3カ月連続で減少、ドラッグストアが同0.5%減と3カ月ぶりに減少、ホームセンターが同1.0%増と5カ月ぶりに増加。12月の乗用車新車販売は、普通乗用車で前年比0.6%減、軽乗用車で同11.9%と減少したものの、小型乗用車で同22.2%と増加し、全体では前年比0.03%増と2カ月連続で増加。

住宅建築：振れを伴いつつも緩やかな持ち直し傾向。

12月の住宅着工戸数は、分譲住宅で前年比42.4%と減少したものの、持家で同5.2%増、貸家で同90.6%と増加し、全体では前年比34.6%増と2カ月連続で増加。

設備投資：底堅く推移。

「全国企業短期経済観測調査結果（2016年12月）-香川県-」における2016年度の設備投資は、全産業で前年度比18.6%増加見込み。

公共工事：高水準で推移。

12月の公共工事請負額は、県で前年比49.4%と減少したものの、国・独立行政法人等で同50.5%増、市町で同17.2%と増加し、全体では前年比7.8%増と3カ月ぶりに増加。4～12月の年度累計では前年比8.0%増加。

輸出：足許減少も底堅く推移。

12月の県内通関輸出額は、主要品目である船舶で前年比41.0%と減少し、全体では前年比25.9%減と4カ月ぶりに減少。1～12月の累計では前年比11.3%増加。

生産活動：持ち直しの動きに足踏みがみられる。

11月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比1.7%低下し、99.0と2カ月ぶりに低下。原指数は、前年比0.6%低下し101.6と3カ月連続で低下。化学・石油石炭製品工業（医薬品）、輸送機械工業（鋼船）などで低下。非鉄金属工業（電気金、電気銅）、金属製品工業（アルミニウム建具、鋼管（ベンディングロール））などで上昇。

観光：堅調に推移。

12月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、前年比3.4%増と3カ月連続で増加。1～12月の累計では前年比2.8%増加。

雇用情勢：好調に推移。

12月の有効求人倍率（季調済）は、前月より0.04ポイント低下の1.67倍と2カ月連続で低下。新規求人数（原数値）は、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉、サービス業等が増加し、全体では前年比0.3%増と17カ月連続で増加。

（トピックス）

○1月10日に高松市内であった瀬戸内国際芸術祭実行委（会長・浜田知事）の総会での報告によると、2016年11月に閉幕した第3回瀬戸内国際芸術祭の経済波及効果は、前回（2013年）よりも5.3%増の139億円となった。同実行委と日本銀行高松支店が産業連関表などを基に分析。来場者アンケートから、1人当たりの消費金額を県外からの宿泊者で5万3,127円、航路の乗船者数などから来場者を29万人として推計した。内訳は、観光客が宿泊や飲食、交通費などに支出した直接効果が86億円。直接効果によって生産額などが増加する間接効果が53億円だった。同実行委は、前回に比べ県外来場者の平均滞在日数や平均宿泊数が共に増えたことなどから、宿泊、飲食、交通を中心に消費金額が増加したことが数字を押し上げたと説明。中でも、消費金額の多い外国人来場者が増えたことが大きく寄与したと分析した。

項目	変化方向			評 価				
	好転	不変	悪化	晴	晴一部曇	曇	曇一部雨	雨
現在の景気	○	●	○	○	○	●	○	○
3か月程度の見通し	○	●	○					
個人消費	○	●	○	○	○	●	○	○
住宅建築	○	●	○	○	●	○	○	○
設備投資	○	●	○	○	○	●	○	○
公共工事	○	●	○	○	●	○	○	○
輸出	○	●	○	○	○	○	●	○
生産活動	○	●	○	○	○	○	●	○
観光	○	●	○	○	○	●	○	○
雇用情勢	○	●	○	○	●	○	○	○
企業収益	○	●	○					
企業倒産	○	●	○					
資金需要	○	●	○					